

県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について

—一般国道246号（厚木秦野道路）建設事業に伴う調査事例—

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

平成25年度に始まった国土交通省による一般国道246号（厚木秦野道路）建設に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査は、現在、伊勢原及び厚木市内において進められており、特に伊勢原市内の調査においては、旧石器時代の資料が増え続けている。しかし、各作業は発掘作業を優先して行なっており、出土品等整理作業はまとまった範囲の発掘作業が終了してから実施しているため、多くの資料が出土品等整理作業を待っている状態となっている。

さて、本旧石器時代研究プロジェクトチームでは、以前「県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について—新東名高速道路建設事業に伴う調査事例—」と題して旧石器時代の調査成果を集成し、いち早くその概要を紹介した。今回の事業で得られた調査成果についても、報告書刊行までに長期間を要すると考えられる。このためここでは、これまでの主な調査成果について、その概要を既発表資料記載内容の集成を中心に報告する。詳細については、今後随時刊行されていく調査報告書をもって正式な報告とさせていただく。なお、出土層位の表記は、全て相当層として理解されたい。



第1図 遺跡位置図

上粕屋・石倉中遺跡第2地点

所在地：伊勢原市上粕屋1493-2外

遺跡立地：鈴川が形成した上粕屋扇状地の扇頂部付近、鈴川に面した段丘上に立地し、標高は85～87mを測る。遺跡が立地する段丘は扇頂部のある北から端部が広がる南へ向けて緩やかに下り、また西側にある鈴川の谷と東側の澗谷に向けやや傾斜した緩やかな尾根状地形となっている。

調査概要：2015（平成27）年度の調査では、B0層よりブロック4箇所と2基の配石を伴い、細石刃石器群が出土している。細石刃は黒曜石製が大半を占めるが、その他ガラス質黒色安山岩製で両面調整石器を含む剥片石器が出土している。調査時の石器点数約3,500点、土壌洗浄により石器総数は約9,000点に及ぶ。なお、上粕屋・石倉中遺跡については、令和7年度に報告書刊行の予定。

上粕屋・石倉中遺跡第3地点

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：上粕屋扇状地の扇頂部付近。石倉中遺跡第2地点から県道を挟んだ東側に位置している。

調査概要：L1H層上部より礫器1点が出土している。

上粕屋・神成松遺跡第8地点

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：遺跡は産業能率大学の南側に位置し、開析谷に挟まれた台地上に立地する。

調査概要：平成27年度の調査ではB1層上部で炭化物集中が1か所確認されている。令和2年度には4区からL1H層下層～B1層上層中から凝灰岩製の石核1点が出土した。令和3～4年にかけての調査では、7区から安山岩製の槍先形尖頭器1点がL1S層下層から出土した。8区からは凝灰岩製の剥片1点がL1H層下層～B1層上層中から出土した。10区では凝灰岩製の石核、剥片、碎片24点によるブロックがB1層中～下層中から出土している。

上粕屋・和田内遺跡第4次調査（7区・9区）

所在地：伊勢原市上粕屋2996-10番地外

遺跡立地：鈴川が形成した上粕屋扇状地の北縁、東西方向に延びる丘陵裾部に位置する。

調査概要：2016（平成28）年度、2019（平成31）年度の調査にて旧石器時代の石器群が確認されている。

平成28年度の調査では、7区にてB1層（第Ⅰ文化層）とB2L層（第Ⅱ文化層）で石器が確認されている。第Ⅰ文化層では、2箇所の石器集中部（ブロック）が検出され、ナイフ形石器・槍先形尖頭器、石核、剥片、碎片等がおおよそ1,000点出土し、主な石材は黒曜石である。第Ⅱ文化層では、石核、剥片類が中心でおおよそ6割が黒曜石製である。石器群には礫群が伴っており、礫群中から2点の磨石が発見された。また、約2×12mの範囲に炭化物集中が確認された。

平成31年度の調査では9区にて旧石器時代の石器群が発見された。調査地点は、富士黒色土形成以前に大規模な地滑りと崩壊を経験したようで、ローム層のL1S層からL2層が認められない。石器群は、B2L層より出土し、調査段階にて「調査区北半、緩斜面の上方に大きく二つに分かれるブロック群と礫群の展開を確認した。」「南北2両群を合わせて、ブロックは最低でも10以上、礫群は7基以上あると思われる。」

と報告されている。主に南側のブロック群からは、角錐状石器、切り出し形のナイフ形石器、スクレイパー、磨石、敲石のほか、横剥ぎの石材から製作された国府型ナイフ形石器が発見された。なお、石器石材は黒曜石、チャート、安山岩、細粒凝灰岩などからなる。

上粕屋・秋山遺跡第2・3次調査

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：伊勢原台地北方の丘陵地帯に位置する。周辺は、大山南東麓から南下する鈴川が形成した扇状地にあたる。調査地は、この台地の北東端部付近にあり、北側は渋田川支流が形成した低地、東と南は北側低地から南へ入り込む小支谷より画された舌状の台地端部周辺に位置する。

調査概要：石器群は、L1H層中位とB1層（現時点では上部）の概ね2つの文化層が想定される。

L1H層の上部は、赤色スコリアの密集帯からはじまり、中位辺りに大粒の黒色スコリアがやや集中する様子が捉えられる。L1H層の下底は、現状では赤色スコリアの密集帯をもって最下底とし、スコリア帯の下底をL1H層とB1層の境としている。ただ、赤色スコリアの密集帯は幅が20cm程度有り、ここから下は上層より締まっている。そのため、赤色スコリア帯の上面をL1H層とB1層の境とするほうが、全体の層厚からも妥当と考える。なお、石器群は、黒色スコリアの上部付近と下段の赤色スコリア帯より下部に集中する可能性がある。

器種としては、槍先形尖頭器とナイフ形石器がみられる。槍先形尖頭器は概ねガラス質黒色安山岩製で、L1H層中位辺りから出土しているという。また、ナイフ形石器は二側縁加工の茂呂系ナイフ形石器で、やはりガラス質黒色安山岩製である。ナイフ形石器もまたL1H層中位付近から出土しており、両者の層位的違いはここでは確認されていない。

上粕屋・秋山上遺跡

所在地：伊勢原市上粕屋字秋山上2900-1 外

遺跡立地：調査地点は上粕屋扇状地北縁に位置し、渋田川支流の形成した支谷に面する台地上に立地する。

調査概要：令和3年度から4年度にかけて実施された8区の調査にて、B0層下部～B1層上部にて石器群が発見された。L1H層からは、ガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器と槍先形尖頭器がまとめて出土している。

西富岡・長竹遺跡

所在地：伊勢原市西富岡

遺跡立地：伊勢原市の北東にあたり、大山を源流とする鈴川によって形成された上粕屋扇状地の東側縁部付近、この扇状地を東西方向に横断するように流れる渋田川とその支流に挟まれたやせ尾根状台地上に立地している。調査地点はやせ尾根状台地から縁辺部に位置し、東側では標高約55.0m、西側では標高約47.0mと南西側に傾斜する地形である。

調査概要：令和3年度から4年度にかけて調査が行われ、B0層下部からB1層上部で黒曜石製の細石刃石器群の出土がみられ、一部は未調査範囲に分布がさらに延びることが分かっている。黒曜石の分布と同様に安山岩製の槍先形尖頭器も出土し、この傾向は隣接の2・3次調査と同様であることが明らかになった。

石器が集中していたエリアより若干はずれた北側で炭化物集中が確認されている。

B1層からナイフ形石器や剥片等とともに礫群が検出されている。石器ブロックは黒曜石を中心としたブロックと凝灰岩を中心としたブロックにわかれる。礫群は散漫と礫が分布するような状況であった。その後、L3層で、炭化物の集中と礫片が確認された。B4層まで調査をしたが、遺物は確認されなかった。

西富岡・長竹2遺跡

所在地：伊勢原市西富岡

遺跡立地：本遺跡は大山から延びる扇状地が渋田川とその支流によって複雑に開析された台地上に所在する。この台地は複数の小河川により開析された結果、川の中州のような独立台地となっており、近隣の西富岡・長竹遺跡や渋田川を挟んだ対岸に位置する西富岡・中島遺跡が立地する台地に比べ、一段低い台地である。

調査概要：B0層から凝灰岩製と黒曜石製の剥片が各1点出土した。

第1表 厚木秦野道路建設に伴い発見された旧石器時代遺跡

遺跡名	所在地	出土層位	主な出土遺物・遺構	主な石材	調査年度	備考
上粕屋・石倉中遺跡第2地点	伊勢原市上粕屋	B0層～L1H層上面	細石刃石器群（黒） ブロック4、配石2 3500点以上	黒曜石	2015（H27）	フルイ含め9000点以上 R7年度報告書刊行予定
上粕屋・石倉中遺跡第3地点	伊勢原市上粕屋	L1H層上部	礫器単独		2015（H27）	
神成松遺跡第8地点	伊勢原市上粕屋	B1層上部	炭化物集中1		2015（H27）	
		L1H層下からB1層上層中	石核（単独）	凝灰岩	2020（R2）	
		L1S層下層	槍先形尖頭器（単独）	安山岩	2021（R3）	
		L1H層下層～B1層上層	剥片（単独）	凝灰岩	2021（R3）	
		B1層中層～下層	石核、剥片、砕片など24点 ブロック	凝灰岩	2021（R3） 2022（R4）	
		B1層上層	ナイフ形石器、剥片 3点	黒曜石	2022（R4）	
上粕屋・和田内遺跡第4次調査 （7区・8区）	伊勢原市上粕屋	B1層下層	ナイフ形石器 槍先形尖頭器 ブロック	黒曜石	2016（H28）	R6年度から 出土品等整理作業 実施中
		B2層下部	磨石状石器、石核など ブロック、礫群、炭化物集中	黒曜石、硬質細粒凝灰岩	2016（H28）	
		B2L層	切出形ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー、国府型ナイフ形石器 複数ブロック、複数礫群	黒曜石、チャート、安山岩、細粒凝灰岩	2019（H31）	
上粕屋・秋山遺跡第2次調査	伊勢原市上粕屋	B1層	ナイフ形石器、槍先形尖頭器 礫群共伴	黒曜石	2016（H28）	
	伊勢原市上粕屋	L1H層下からB1層上面	槍先形尖頭器、ナイフ形石器 複数ブロック	黒曜石	2020（R2） 2021（R3）	
上粕屋・秋山上遺跡第3次調査	伊勢原市上粕屋	L1H層中層	槍先形尖頭器 複数ブロック 2000点以上 礫群	ガラス質黒色安山岩、凝灰岩	2017（H29）	
		B1層	ナイフ形石器	凝灰岩	2017（H29）	中日本調査の続き
		記載なし	剥片	細粒凝灰岩	2018（H30）	
		B0層下部～B1層	槍先形尖頭器、ナイフ形石器 複数ブロック 3000点以上	ガラス質黒色安山岩	2021（R3） 2022（R4）	
		B0層	槍先形尖頭器、剥片 3点	ガラス質黒色安山岩	2022（R4）	R3・4と同じ広がり
西富岡・長竹2遺跡	伊勢原市西富岡	B0層	剥片2	細粒凝灰岩、黒曜石	2021（R3）	
西富岡・長竹遺跡	伊勢原市西富岡	B0層下部～B1層上位層	細石刃石器群	黒曜石	2021（R3） 2022（R4）	
		B1層	ナイフ形石器 礫群	黒曜石、凝灰岩	2021（R3） 2022（R4）	
		L3層	炭化物集中		2022（R4）	

※表中の記述内容は、年報30までの掲載内容を取りまとめ、年報記載内容に沿っている。

おわりに

今回は、調査報告が刊行されるまで相当数の年月がかかる新東名高速道路建設事業に伴う調査事例の紹介に続くものとして、一般国道246号（厚木秦野道路）建設に伴う調査事例の紹介を企画した。前回の新東名は発掘調査が終了した時点での紹介であったことから、出土品等整理作業を通して得られる新知見以外、調査地点数などは確定数である。

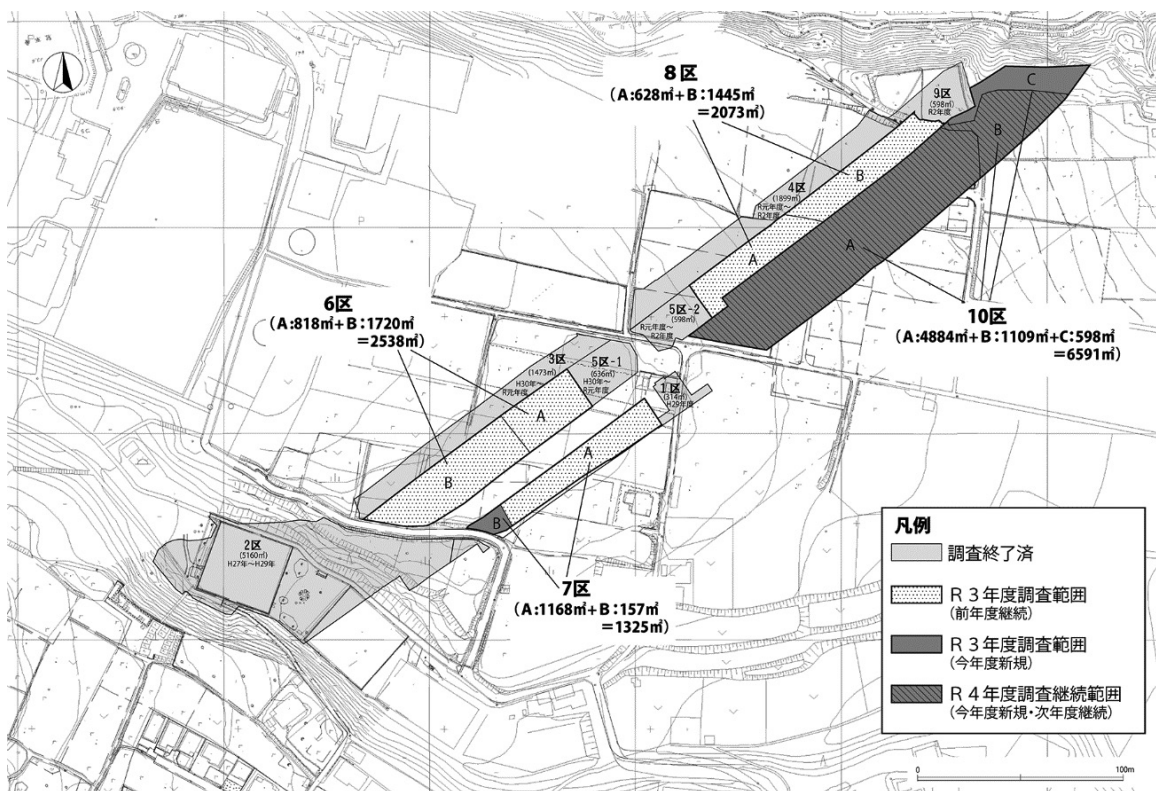
一方で、今回の一般国道246号（厚木秦野道路）建設に伴う発掘調査は令和7年度時点で調査中であり、さらに数年続く事業である。本来ならば新東名と同様発掘調査が終了してからの紹介とも考えたが、上粕屋・石倉中遺跡第2地点、上粕屋・和田内遺跡、上粕屋・秋山遺跡など非常に多くの遺物が出土している遺跡や国府型とみられるナイフ形石器が報告されている上粕屋・和田内遺跡など多様な調査事例が認められた。

これらを受け、いち早く情報の共有を図るものとして暫定ではあるものの、その概要を紹介する機会を設けた。

今後、出土品整理作業をととして石器群の様相が詳らかになっていくこととなるが、発掘調査の段階からご助言を頂いている方々、今回の資料紹介によって知っていただい方々、出土品等整理作業の中でご指導・ご鞭撻を頂ければと願う次第である。

【参考文献】

財団法人かながわ考古学財団 / 公益財団法人かながわ考古学財団 2017～2024年 年報23～30（一括記載）

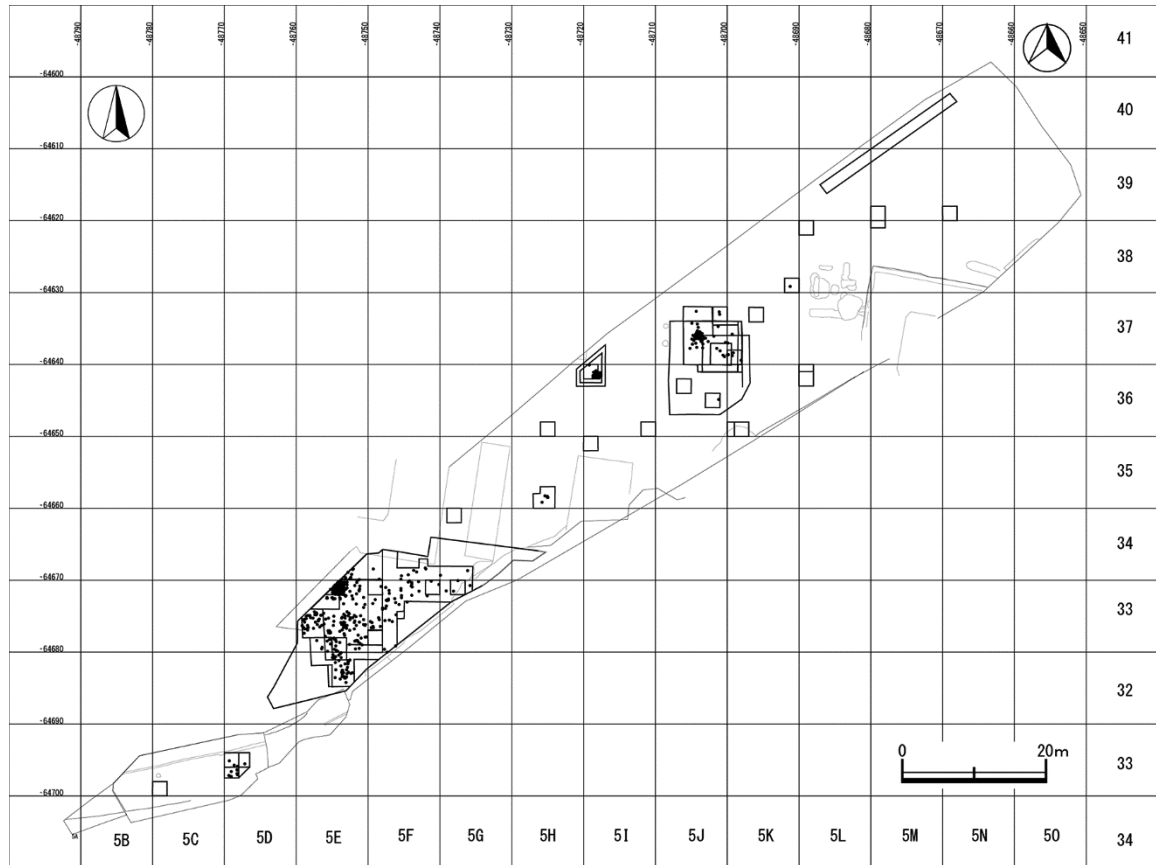


第2図 神成松調査区配置図



第3図 神成松調査区配置図

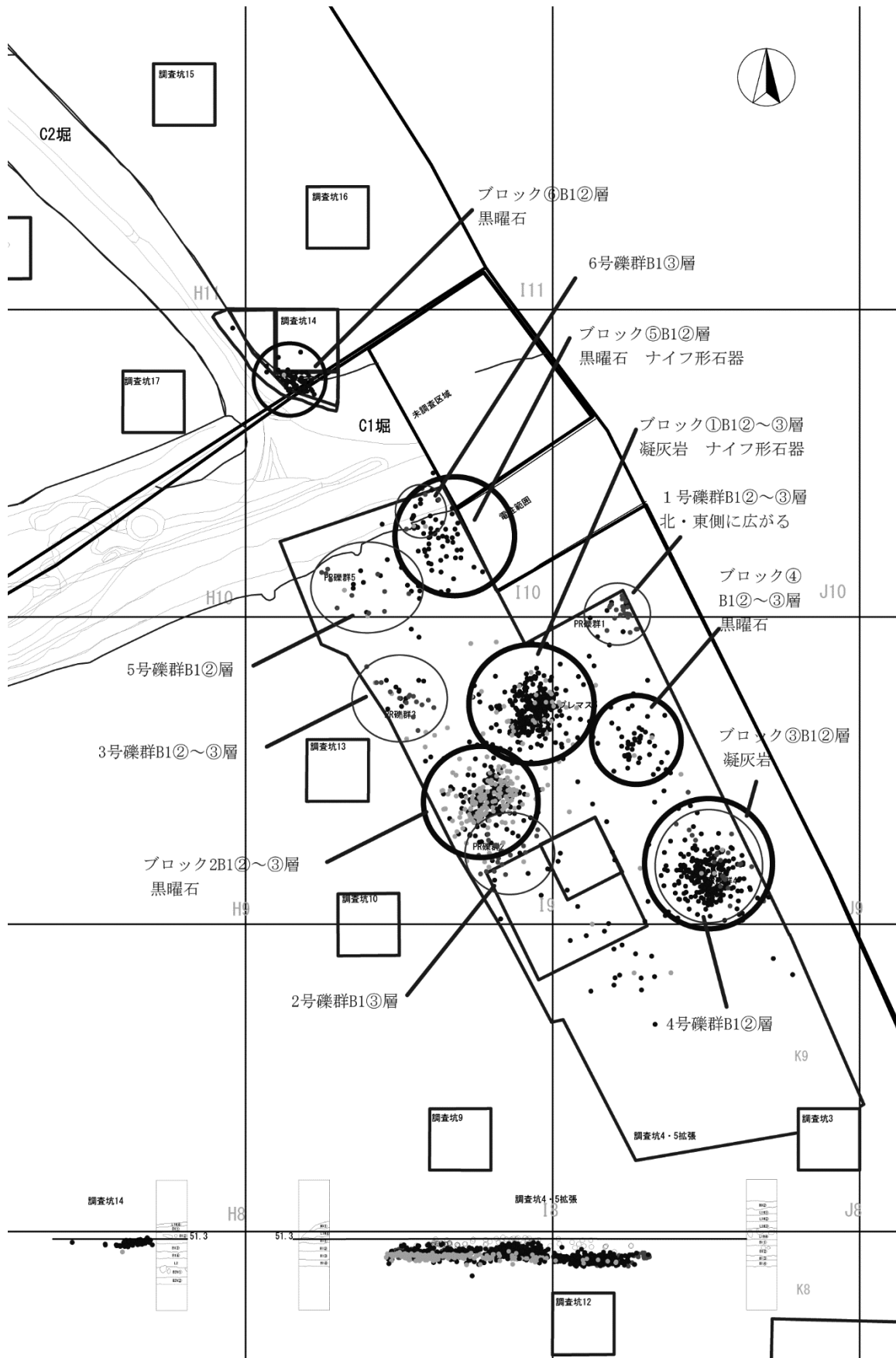
県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について



第4図 秋山遺物分布図（L1H層下～B1層上面）



第5図 秋山上8区遺物分布図（B0相当層下部～B1相当層上部）



第6図 長竹遺物分布図



写真1 神成松10区調査坑

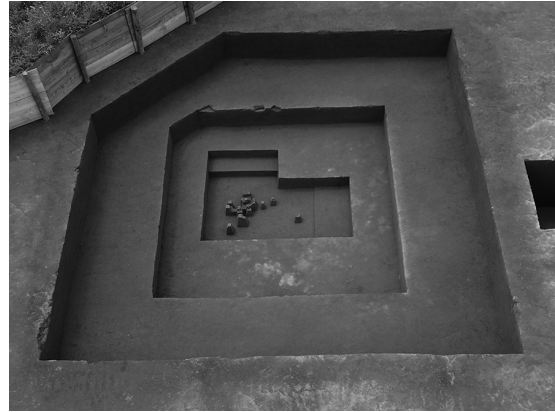


写真2 神成松10区調査坑5

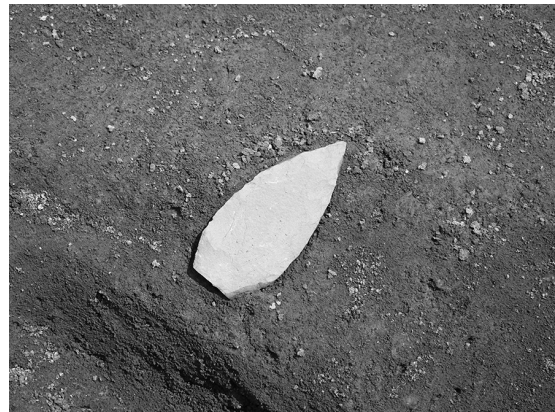


写真3 神成松8地点出土石器（L1S層）



写真4 神成松10B区調査坑



写真5 神成松10B区調査坑5

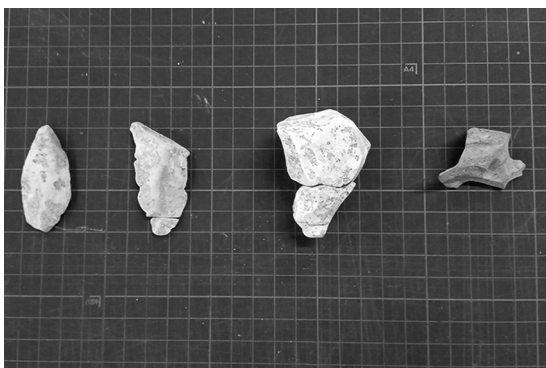


写真6 神成松10B区出土石器



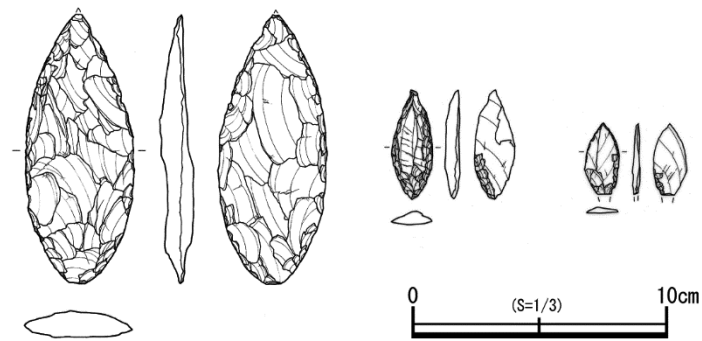
第7図 和田内 出土石器



写真7 秋山 遺物出土状況 ((西から)



写真8 秋山 遺物出土状況 (L1H層)



第8図 秋山 出土石器

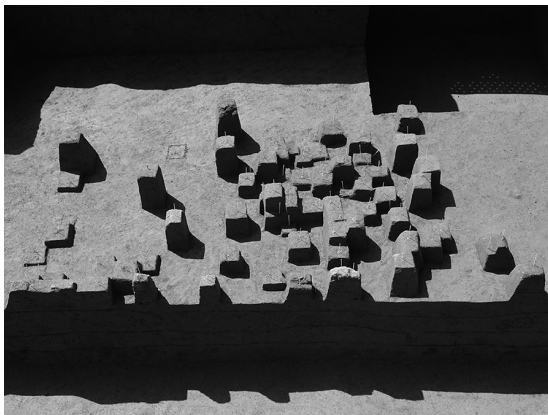


写真9 秋山上 遺物出土状況 (L1H層)



写真10 秋山上 遺物出土状況 (L1H中層)

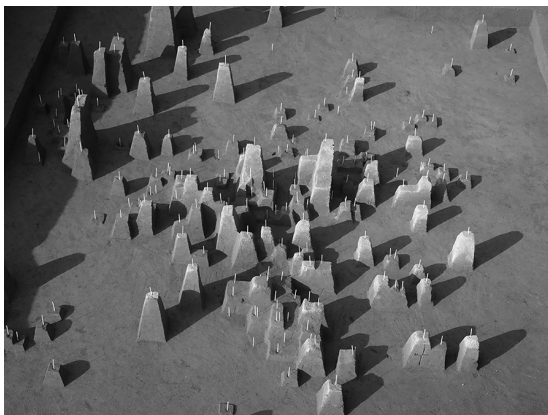


写真11 秋山上 遺物出土状況 (L1H～B1上層)

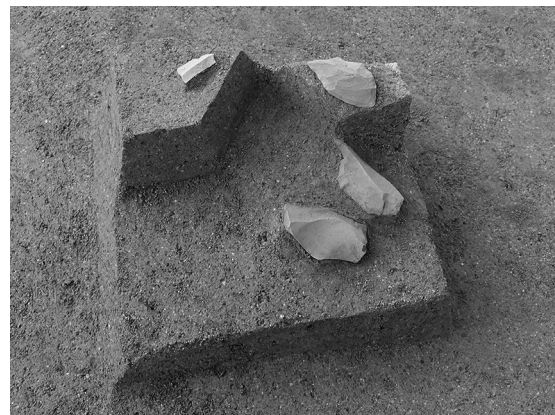


写真12 秋山上 遺物出土状況